

次に、小梅議員の発言を許可致します。

(議長)

「小梅議員」。

「小梅議員」

質問に入らせて頂きますが、1問目の商店街への事に関しましては、午前中の萩原議員の質問と、重複してる部分が多分にあると思いますので、ご了承宜しくお願い致します。

商店街の拠点化による賑わいづくりと地域コミュニティの造成についてでございます。高齢化が進む中で、買い物にも難儀している時代ですが、下町愛宕町商店街は、多様な小売店がそろっていて、高齢者でも歩いて出かけて買い物が出来る大変便利な所でございます。買い物などで外出する事は、体を使い頭を使い話も出来て無理せずとも介護予防にも繋がり、また必然的に活発なコミュニティが生まれる大事な場所で、決して無くしては、ならない拠点だと常日頃思っております。その思いを一層強くする出来ごとがありました。

というのは、一人の男性の方の言葉でございますが、「江差に来て愛宕町を通った時に、その町並みが幼少時に過ごした葛飾柴又に似ていて、帝釈天の近くで生まれ育った自分は、昭和の色濃い愛宕町商店街を見て、人情深い故郷、柴又を懐かしく思い出し、心がほっこりと和み感激した」としみじみとおっしゃっていました。「こんな町は、沢山あちこちにあったんですが、今はほとんどもう、無くなってしまって、姿を消している。決して無くしてならない大事なとこだ。きちんと町を守って行って下さい」って言われました。

「ええ」ってよそから来てこんな風を感じてくれる方もいるんだと思って、ちょっと私も、びっくりしながら、感激もしました。幸いにも、愛宕町商店街は、店の数が減ったとはいえ、まだ、その要素が実際の商店街として生きていて拠点化されております。町長の所信表明にもございましたように、商店街の拠点化による賑わいをうたってますが、その大事な拠点の存続と人情身あふれる北の柴又、勝手に言わせて頂きますが、を目指した賑わいの活性化のためにどのような方策を考えているのか、お聞かせ願いたいと思います。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

小梅議員から商店街の拠点化による賑わいづくりと地域コミュニティの造成についてのご質問がありました。萩原議員のご質問にもご答弁申し上げましたが、商店街は地域経済や地域住民の消費生活を支える一方、地域コミュニティや交流の場であり、地域住民の安心安全を守る重要な場と、重要な場であると認識しております。人口減少や後継者不足により、廃業する店舗が増加することは、地域経済の低迷と商店街の賑わい喪失に繋

がるだけではなく、安心安全の低下や買い物困難者の発生など、地域に大きな影響を与えるものと考えています。町と致しましては、商店街が自ら取り組む活性化策に対し、支援を行って参りたいと考えております。具体的には、各商店街が開催するイベントの回数を増やして頂くなど、定期的に町民が商店街へ足を運んで頂く仕組みづくりや、そこに集う町民の移動手段としての買い物バスの運行など、検討して参りたいと考えております。

また、創業者に対し経営財務等のサポートや資金調達等の効果的な創業支援を行う、創業支援事業計画の策定をとoshi、空き店舗などでの新たな創業支援などを検討して参ります。今後も各商店街や、商工会と連携を図りながら、具体策の取り組みを協議して参りたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

はい、「小梅議員」。

「小梅議員」

はい。今、ご答弁頂きました。私はですね、外から来る人もとっても大事ですけども、まずは、そこに住む人が幸せだと思って、感じて暮らせる。ですからそこに住む住民の意識がものすごく大事だと思うんです。いかに、あのよそから人を迎えても、その地域の人が知らんぷり、冷たい感じだったら何にもならないと思いますし、本当にそこに住む人の方の心意気、それが最も大事だと思うんです。それで今回も言われたように、人情、それから心がほっこり、それがものすごくいいヒントになったなって、私は思いました。それで、そんなふうな事だったら、高齢者も元気に若者も澁刺として、気持ちを明るく持って暮らしていったら、必然的にたいした経済的にゆとりなくても、わりかし心が元気になって、町も少しは活気が出てくるんですね。そこに、こう少し支援して頂いて、皆がワイワイと繋がりを持ちながら、やってったら、もっともっとおのずと、交流も生まれて元気になると思うんです。それには、町内会の活動とかまた商店街の人たちの心意気、そういうのも、ものすごく大事で、町の方でも行政、町の方の考えとしても、そう協力がものすごく必要になってくると思うんです。具体的に反対にね、町内会だとかそういう店の人の方に対して、どのような協力、こういう協力があったら、助かるよなってそういうようになって、そういうような物が具体的にあったら、お知らせ下さい。何か考えてますでしょうか。

(議長)

はい、「産業振興課長」。

「産業振興課長」

はい。先程、萩原議員のご質問でもお答えさせていただきましたけれども、具体的な施策

については、現段階ではこのようになっていうのは、まだ作っているわけではございません。しかし、先程、町長も答弁でもお話しさせて頂いたとおり、各商店街が自ら実施するイベントだとか、に対して、またそこに町民が集える様な仕組み作り、こういうイベントの開催と支援作り、そこに足を運ぶ町民の足を運びやすくするための、支援作りっていうものについてはですね、今後検討して参りたいなというふうに考えてございますし、また、シャッターがしまっている、お店で新たにですね、新たな賑わいが創出できる様にということで、現在、創業支援事業計画というものを策定すればですね、そこで色々な支援制度を受けられるという国の制度もございますんで、こちらの検討もですね、並行して進めながらですね、商店街の維持、もしくは新たに活性化を目指して参りたいなというふうに考えてございますので、ご理解頂ければなと思います。

(議長)

はい、いいですか。小梅さん。

「小梅議員」

はい。ありがとうございました。

(議長)

はい、2問目。「小梅議員」。

「小梅議員」

はい。それでは2問目に移らせて頂きます。

2問目。「東京江差会」についてでございます。これは、平成28年3月議会でも、「東京江差会」の件を質問していますが、その時の質問に対しまして、東京江差会は平成12年を最後に休会状態だが、東京23区大田区との連携が始まったことから、会の活動を促す良い機会だからアプローチしてみるとの答弁でございました。その後の動きは、あったのでしょうか。

それから、今年の10月に江差高校の同窓会北鷗会の関東支部総会がありまして、私も出席した折に江差会設立希望の話が出てました。代表の人も決まっているようでしたが、その方とにコンタクトは取れたのか。また、今後どのように進めて行くのかお聞きしたいと思います。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

小梅議員の2問目、「東京江差会」の再開に関してのご質問にお答え申し上げます。

「東京江差会」の再開に関しましては、小梅議員のご質問を受け、私も東京に多くの江差出身者がいることから、江差町のサポーターとして、ネットワークを作って頂き、ふるさと江差を応援して欲しいという思いから、以前、「東京江差会」で活躍された方とコンタクトを取らせて頂きました。この間、北鷗会関東支部長様と顧問の方を含め、江差・・・失礼しました。「東京江差会」再開に向け、幹事役となる方の人選や、会費制で行うことなどなどについて、前向き、前向きな意見交換をされたとお話しを頂いておりましたが、時間を経過していることから、改めて担当課から連絡を取らせて頂きました。現状での動きと致しては、本年、10月の「北鷗会関東支部」総会に出席した小梅議員を始め、多くの方からも再開を望んでいる声もあったと聞きを読んでいます。この間、思うように進んでいなかった協議でしたが、再開を望んでいる多くの声を再協議の良いタイミングととらえ、幹事役を選任し、方針を協議した上で来年の秋には、設立準備会を開催したい旨の連絡があったことがございます。あった所でございます。

今後におきましても、引き続き「東京江差会」が再開されることを期待し、町と致しましても、バックアップして参りたいと考えております。

(議長)

はい、いいですか。

「小梅議員」

はい、ありがとうございました。終わらせて頂きます。

(議長)

はい、ありがとうございます。

以上で、小梅議員の一般質問を終わります。